

女性

働く



「社会に出た瞬間からフルボッコにされてきました」

取材で出会った50代の女性の言葉だ。いわゆる就職氷河期の新卒時、正社員の仕事が見つからず、長年非正規公務員として働いてきた。この間何度も雇い止めに遭った。自腹で必要な資格を取っても重要な業務を担うようになっても、努力や実績が任用継続につながることはなかったという。

ある40代の女性は顧客からたびたび「手続きが早い」と評価されていたのに、突然上司から「仕事が遅い」と言われた。ぼろくずして雇い止めを通告され、上司

優秀な彼女たちは



話を聞いた40代の女性

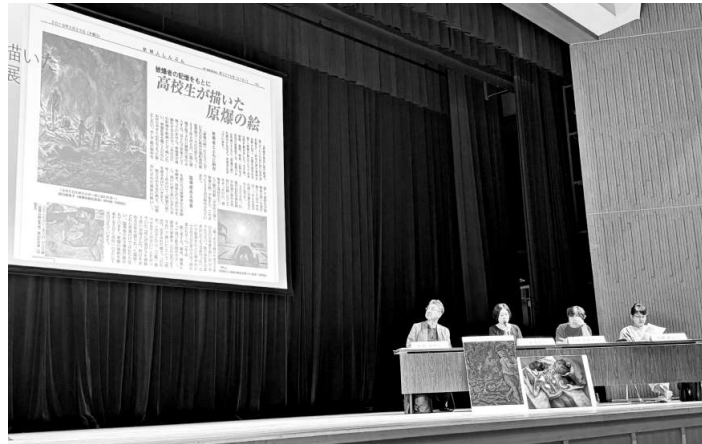
生活困窮状態にある就職氷河期世代の女性たちは「優秀な人」という印象を抱くことが、男性に比べて多い。メールの文面はそつと、指摘はクビにするための「口実」であることが分かった。

生活困窮状態にある就職氷河期世代の女性たちは「優秀な人」という印象を抱くことが、男性に比べて多い。メールの文面はそつと、指摘はクビにするための「口実」であることが分かった。

取材の現場から(最終回)

〈就職氷河期世代〉

ジャーナリスト 藤田 和恵



「平和をきずくために私たちは何ができるか」フォーラム



厚紙でつくったアブチラガマを示しながら報告

相模原中央支部のRさんは、「私は米軍厚木基地から飛ぶ航空機の飛行経路の下に住み、普段から騒音に悩まされています。しかし沖縄の戦艦の爆音は想像以上。なぜこんなことが起きるのか、現地を訪れて戦前の琉球を学んで、平和について親子で考えました」と企画を紹介。

沖縄では、ひめゆり

戦争の記憶を自分ごとに

教育研究全国集会
2026in愛知
発表より

8月21〜23日の3日間、全国から教職員、保護者ら延べ3500人(オンライン含む)が集まり「みんなで21世紀の未来をひらく教育のつどい」教育研究全国集会(2026)同実行委員会主催)が愛知・名古屋市中区で開かれた。平和と教育をテーマに、新婦人フォーラムや分科会で発表したレポートを紹介し、

中学・高校で「原爆の絵」展 愛知・名東支部 広げて

「平和をきずくために原裕子さんが、支部で私たちに何が出来るか」とりくんだ学校での「高校生が描いた『原爆の絵』展」について名東支部の事務局長三



学校で実際に使用したパネルを置き発表する三原さん

「平和をきずくために原裕子さんが、支部で私たちに何が出来るか」とりくんだ学校での「高校生が描いた『原爆の絵』展」について名東支部の事務局長三

「平和をきずくために原裕子さんが、支部で私たちに何が出来るか」とりくんだ学校での「高校生が描いた『原爆の絵』展」について名東支部の事務局長三

「平和をきずくために原裕子さんが、支部で私たちに何が出来るか」とりくんだ学校での「高校生が描いた『原爆の絵』展」について名東支部の事務局長三

高校生の原爆の絵展とは、広島市立基町高校の生徒たちが被爆者から当時の光景を聞き、制作しているものです。作品は広島平和記念資料館に寄贈され、被爆証言活動に使用されています。

生と交流している10代の学生も発言しました。「意志の強い大人がいる事を知り、安心しています。二度と繰り返さないために歴史を伝えるのは大切だと思つた。未来を平和にしたいと思う若者たちに、ぜひ力を貸してほしい」

青森

空手道場で原爆の絵展

青森支部たんぽぽ班吉田祥子【終戦記念日の8月15日、班は昨年に続き広島市立基町高校生徒と被爆者の共同制作「高校生の原爆の絵展」を開きました。

8月7〜9日、藤岡平和展を開き、700人が来館しました。

神奈川

地域の神社で平和の鐘つき

藤沢支部たんぽぽ班小柳倫子【私たちの地域にある宇都母知神社で8月9日、2020年から7回目となる「平和の波」行動として鐘つきをしました。

唱。今回はルビ付きの憲法前文を朗読し、小学生も大きな声で読みました。お堂の周りは三原爆展。被爆写真や高校生の絵を飾りました。原水禁世界大会に参加した親子は感想を話しました。宮司さんは、長崎で自身の曾祖父が被爆して亡くなったことを話し、この運動の大切さを語りました。

初参加の方が、「こんな身近に鐘をついたり、平和を願う集いがあるなんてアツク会員だ。班の方は大喜びで入会したばかりの方と一緒に鐘をつきました。暑い夏の暑い運動ですが、周りは林なので涼しい風が吹き、帰路は近くの農家でスイカや野菜を買って帰る人もいました。平和は身も心も豊かにしてくれました。

広島

平和を願って2班が企画

広島支部のRさんは、「私は米軍厚木基地から飛ぶ航空機の飛行経路の下に住み、普段から騒音に悩まされています。しかし沖縄の戦艦の爆音は想像以上。なぜこんなことが起きるのか、現地を訪れて戦前の琉球を学んで、平和について親子で考えました」と企画を紹介。

「子どもと言葉で目と言葉で」

球処分をはじめ長く残る構造的差別や格差などを、私のいる相模原と大きく違いがあることを知った。一人ひとりの命と尊厳を守るために、私たちは歴史を学び、違う文化や価値観を尊重し、自分たちの社会をどうしていくのかを考え続けていきたい」と報告しました。

愛媛

平和とおしゃべりができた

愛媛支部のRさんは、「私は米軍厚木基地から飛ぶ航空機の飛行経路の下に住み、普段から騒音に悩まされています。しかし沖縄の戦艦の爆音は想像以上。なぜこんなことが起きるのか、現地を訪れて戦前の琉球を学んで、平和について親子で考えました」と企画を紹介。

愛媛支部のRさんは、「私は米軍厚木基地から飛ぶ航空機の飛行経路の下に住み、普段から騒音に悩まされています。しかし沖縄の戦艦の爆音は想像以上。なぜこんなことが起きるのか、現地を訪れて戦前の琉球を学んで、平和について親子で考えました」と企画を紹介。

愛媛支部のRさんは、「私は米軍厚木基地から飛ぶ航空機の飛行経路の下に住み、普段から騒音に悩まされています。しかし沖縄の戦艦の爆音は想像以上。なぜこんなことが起きるのか、現地を訪れて戦前の琉球を学んで、平和について親子で考えました」と企画を紹介。

宮城

仙台市補聴器助成が実現

宮城支部のRさんは、「私は米軍厚木基地から飛ぶ航空機の飛行経路の下に住み、普段から騒音に悩まされています。しかし沖縄の戦艦の爆音は想像以上。なぜこんなことが起きるのか、現地を訪れて戦前の琉球を学んで、平和について親子で考えました」と企画を紹介。

宮城支部のRさんは、「私は米軍厚木基地から飛ぶ航空機の飛行経路の下に住み、普段から騒音に悩まされています。しかし沖縄の戦艦の爆音は想像以上。なぜこんなことが起きるのか、現地を訪れて戦前の琉球を学んで、平和について親子で考えました」と企画を紹介。

宮城支部のRさんは、「私は米軍厚木基地から飛ぶ航空機の飛行経路の下に住み、普段から騒音に悩まされています。しかし沖縄の戦艦の爆音は想像以上。なぜこんなことが起きるのか、現地を訪れて戦前の琉球を学んで、平和について親子で考えました」と企画を紹介。

全国からの投稿お待ちします